

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	神埼市立千代田西部小学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・全職員による研究授業、事後の研究協議会を行い、校内研究を核とした「わかる」「できる」を実感できる授業づくりが着実に進んでいる。学力状況調査などからは、少しずつその成果があらわれてきている。しかし、学年によってはなかなか成果がみえない学年もある。今後も徹底した基礎基本の習得と家庭学習の充実に注力し、学力向上を目指す必要がある。 ・落ち着いた生活態度や学習環境の改善が図られ、高学年を中心に児童自らの規範意識が醸成されてきた。今後も高学年をモデルとした下学年への継承を教職員が意図的にを行い、自律し、自走する集団としての成長をうながす。
------------------	---

2 学校教育目標	「豊かな心をもち 個性と主体性に富み 逞しく生きる」児童の育成 ～自分を愛し、友だちを愛し、学校・地域を愛する西部小の子～
----------	--

3 本年度の重点目標	・校内研究を核とした、児童同士がつながり学び合う授業改善の継続、及び自己の学びを視点をもって振り返り表出できる児童の育成の推進 ・支援を要する児童への対応や指導体制の確立、及び特別支援教育の充実 ・自己の持ち味を生かし、強みを生かした学び続ける教師集団の体制づくり ・一人一台端末(児童用タブレット)の効果的な活用の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者				
(1)共通評価項目														
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価						
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言					
●学力の向上	○陰山メソッドによる徹底反復学習による基礎 的基本的学習の定着	○百ます計算で学年目標達成率80%以上 ○当該学年の漢字習得率80%以上		・週3回の陰山メソッドによるスキルタイムの実施 ・全学年デジタル100ます計算に取り組む ・各学年で四則計算の達成目標を決め、スキルタイムで実施し、 計測日で達成状況を確認する ・家庭学習でも計算の反復練習に取り組む ・スキル参観を行い。教職員間での共通理解と児童の意欲向上を 図る		・		・		〈学び部〉 ・研究主任 ・学力向上コーディネー ター				
	○「わかる」「できる」を実感し、学びを楽しむ授 業づくりの推進	○アンケートにて「授業で学習したことがわかる」と回 答した児童80%以上 ○算数科での単元テスト、知識・技能の観点において の得点率80%以上 ○家庭での学習時間において学年目標達成率80% ○人権に関するアンケートにて肯定的な回答をした 児童87%以上 ○ふれあい道徳の実施率100%									・全員研究授業による実践の共有化 ・授業と連動した家庭学習の充実を図り、児童の理解の状況を即 時把握し、フィードバックする	・	・	・
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他 者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、 感動する心など、豊かな心を身に付ける教育 活動	○児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他 者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、 感動する心など、豊かな心を身に付ける教育 活動		・平和集会及び人権集会・感謝の会の実施 ・児童会活動を主体とした活動の推進 ・児童アンケートの実施 ・道徳の公開授業(ふれあい道徳)の実施		・		・		〈心づくり部〉 ・人権・同和担当 ・道徳教育担当				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組 の充実	○アンケートにていじめ防止・対応について、組織的 な対応ができていると回答した教員90%以上									・毎月心のアンケートを実施。7月、12月は県統一様式のいじめア ンケートを実施 ・アンケートと連動した担任や管理職及びSC等と連携した児童と の関りの推進 ・教育相談全体会を月に一度実施 ・ケース会議の実施(随時)	・	・	・
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向 けて意欲的に取り組もうとするための教育活 動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれると思 う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定 的な回答をした児童生徒80%以上									・あいさつや生活態度等に励んでいる児童を紹介する活動(ほめ ほめ活動)を実施し、児童の自己肯定感を高める ・学習や学校行事等において、個々の目標をもたせ、振り返りをも とに次の活動への意欲をもたせる。 ・学年に応じたキャリアパスポートの活用	・	・	・
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)を目指す ○怪我等による保健室来室者を前年度比5%減 ○自転車のヘルメット着用率100% ○防犯ブザーの所持率100%		・登下校の合言葉を作成したり、適宜、地区児童会や登校班長会 を実施したりして、児童の安全意識の向上を図る ・保健だよりを発行したり、各学級で正しい運動場での遊び方を指 導したりして、怪我の予防を呼びかける ・毎月、ヘルメット着用や防犯ブザーの所持状況を調査して、通信 等で保護者への啓発を行う		・		・		〈体づくり部〉				
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育 成」	●食に関するアンケートにて、「朝ご飯を毎日食 べている」「苦手なものでも食べようとしている」と回答した 児童85%以上									・食に関するアンケートを行うことで、食に関する自己意識の振り 返りを行ったり、生活改善の機会を設けたりする ・給食委員会を中心に、給食集会や給食残菜0(ゼロ)週間を設定 することで、児童の食への関心の向上を図る	・	・	・
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の 削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の 上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当りの年 次休暇の取得日数14日以上 ○職員全体の時間外在校時間平均35時間以下		・定時退勤日の設定 ・共通理解、共通実践を可能にする掲示板の活用 ・会議資料等に所要時間の予定時刻を明記 ・毎日、職員1人ひとりに目標退勤時刻を設定させ、退勤時刻を 意識した計画的な業務を促す		・		・		教頭				
●特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育に関する専門性と意識 の向上	○特別支援教育に関する理解が深まったと回答した 教員90%									・特別支援教育に関する研修会の実施 ・情報共有の場を作り、個々に応じた支援の在り方を確認し、 日々の指導や支援に生かす	・	・	・
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目														
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言					
○児童が自律・自走する集 団へ向かうための教育の 推進	○きまりやルールを守り、自分で考えて行動で きる児童の育成	○アンケートにて「きまりやルールを守ることがで きる」と回答した児童90%以上 ○協力・助け合いながら楽しく活動に取り組む児童 の割合90%以上		・教員が学習面、生活面のきまりやルールを共有し、指導に関す る共通実践の徹底と継続を図る。 ・学校行事等で、教師が児童の役割を意図的にコーディネートす る		・		・		教頭、各担当				
○教職員の資質向上、授 業力向上	○指導力・実践力の向上	○教職員の資質能力の向上に資する職員研修の実 施 ○授業力が向上したと感じている教員90%以上									・授業研究会を中心とした校内研究の充実 ・服務、学習指導、特別支援教育に関する研修の実施 ・自主研修会を周知するなど興味・関心のある研修への参加を促 す	・	・	・

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--